

2024年7月31日

2025年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード：2053

ホームページ <https://www.chubushiryo.co.jp/>

お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部 総務課

目次

25.3 1Q 決算レビュー

- ◆ 連結業績
- ◇ 連結経営成績 5
- ◇ 営業利益の増減要因 6
- ◇ 連結財政状態 7
- ◇ 外部環境① 8
- ◇ 外部環境② 9
- ◆ 飼料セグメントの状況
- ◇ 飼料セグメント実績 ①畜産飼料 1 1
- ◇ 飼料セグメント実績 ①畜産飼料 (続き) 1 2
- ◇ 飼料セグメント実績 ②水産飼料 1 3
- ◆ その他セグメントの状況
- ◇ その他セグメント 実績 1 5

通期見通し

- ◇ 今後の見通し① 1 7
- ◇ 今後の見通し② 1 8

参考資料

- ◇ 株主還元方針 2 0
- ◇ コーポレートガバナンスコード対応
 (政策保有株式・人的資本) 2 1
- ◇ 参考資料 2 2

25.3 1Q 決算レビュー

連結業績

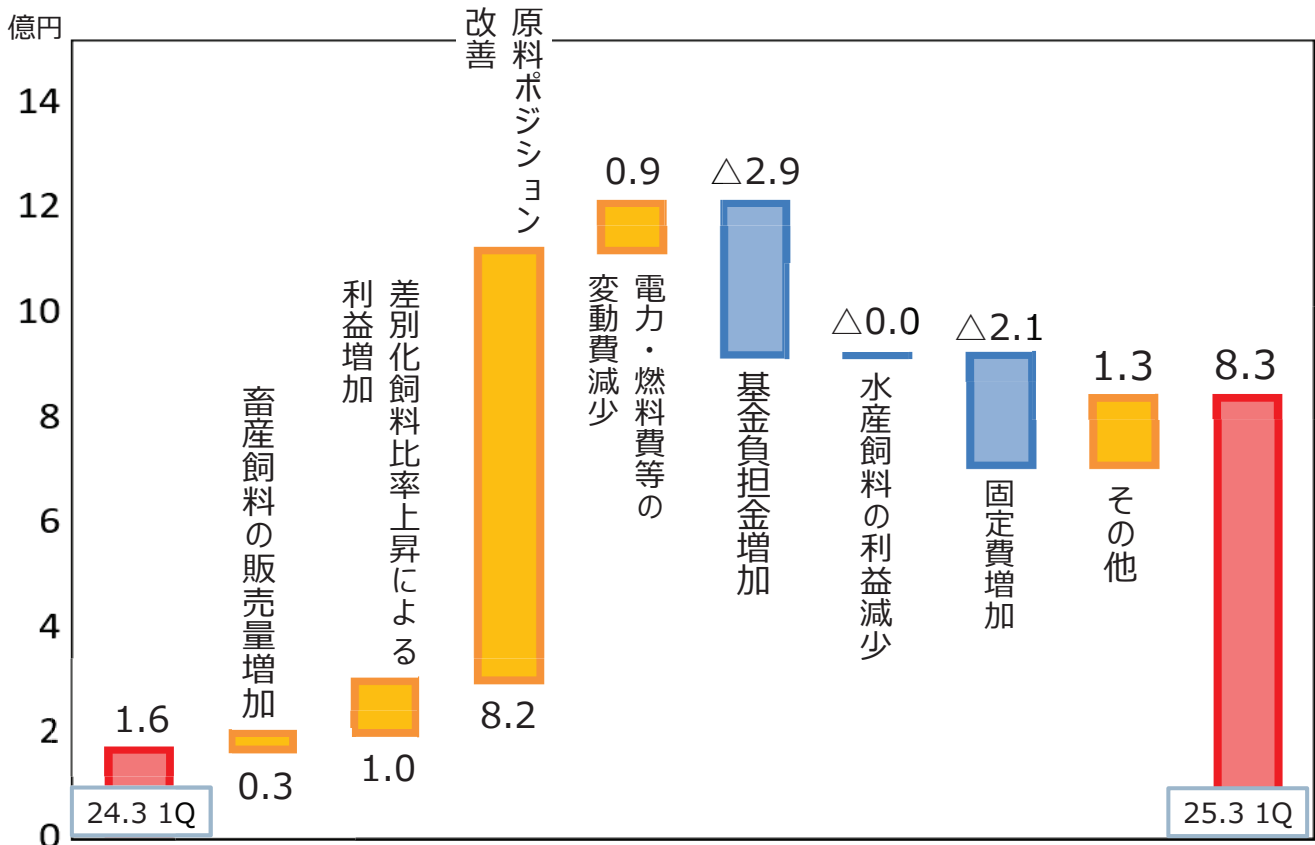
- ◇ 売上高は、畜産飼料の販売数量が増加したものの、売価下落・みらい飼料の連結除外により減収。
- ◇ 営業利益は、主に畜産飼料の原料ポジションの改善により増益（次ページを参照）
- ◇ セグメント利益について、飼料セグメントは11ページ以降、その他セグメントは15ページで説明。
 なお調整額は、受取配当金の増加と投資有価証券売却益により改善。

(単位：百万円)

	通期計画	24.3 1Q	25.3 1Q	前年同期比	計画進捗率
売上高	209,000	61,012	52,104	△ 8,907	24.9 %
飼料	—	57,691	48,070	△ 9,621	—
その他※1	—	3,320	4,034	713	—
営業利益	4,200	169	836	667	19.9 %
経常利益	4,600	359	1,045	685	22.7 %
セグメント利益※2	4,900	363	1,143	779	23.3 %
飼料	4,350	285	842	556	19.4 %
その他※1	900	124	299	174	33.3 %
調整額※3	△ 350	△ 46	1	48	—
純利益	3,400	244	794	549	23.4 %
設備投資額	4,000	537	961	424	24.0 %
減価償却費	3,000	676	682	5	22.7 %

※1.その他セグメント：鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等
 ※2.セグメント利益：税金等調整前四半期純利益
 ※3.調整額：各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む

営業利益の増減要因



25.3 1Q 要約連結貸借対照表

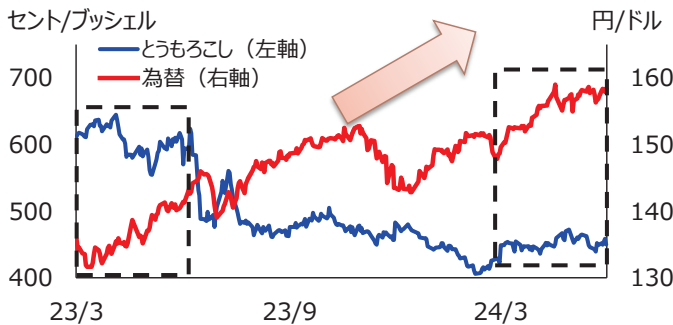
(単位：億円)

流動資産	650 (△45)	負債	334 (△47)
現預金	45 (+15)	買掛金	180 (△32)
売上債権	437 (△23)	有利子負債	72 (△3)
たな卸資産	134 (△1)		
流動比率 274.9 % (+40.4pt)		純資産	658 (+1)
		株主資本	623 (+1)
		その他包括利益	34 (+0)
		非支配株主持分	0 (△0)
		自己資本比率 66.2% (+3.0pt)	
固定資産	342 (△0)		
有形	250 (+3)		
無形	4 (△0)		
投資その他	88 (△2)		
総資産	992 (△45)	負債・純資産	992 (△45)

※ () 内の数値は、24.3期末との比較

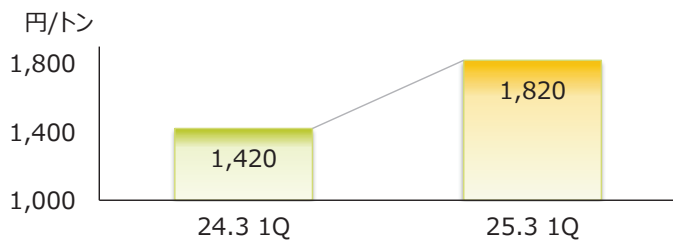
7

外部環境①



とうもろこしシカゴ相場と為替相場の推移

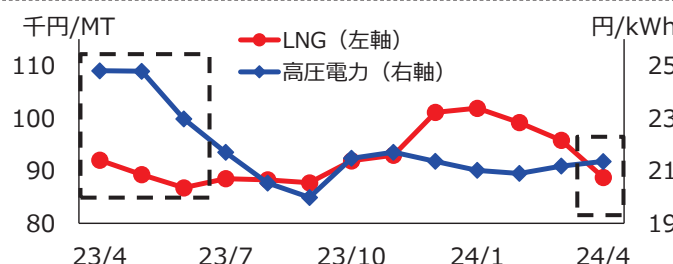
- ◇ とうもろこし相場は23年6月以降下落し、直近は安定
- ◇ 為替は23年3月以降、円安で進行し、直近は160円/ドル付近で推移



基金負担金[※]の単価推移

- ◇ 高額な補てん金の交付が続いたことから24.3期は1,420円/トン、25.3期は1,820円/トンと高値で推移

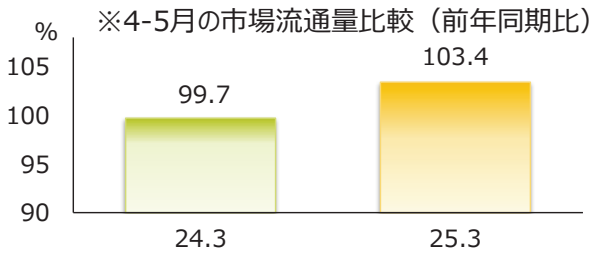
※ 基金負担金の詳細は22ページ参照



エネルギー単価の推移

- ◇ LNGは23年12月より上昇も、直近は下落
- ◇ 高圧電力は23年6月以降下落し、直近は安定して推移

8



※ 農林水産省 飼料月報

畜産飼料の市場流通量

◇ 前年、鳥インフルエンザの影響で減少していた採卵鶏用飼料が回復







	2023年2月1日現在		2024年2月1日現在	
	飼養頭羽数 (千頭・千羽)	1戸当たり 頭羽数	飼養頭羽数 (千頭・千羽)	1戸当たり 頭羽数
採卵鶏	128,579 (93.7)	76,082 (100.3)	129,729 (100.9)	79,103 (104.0)
ブロイラー	720,878 (100.2)	340,037 (101.6)	731,929 (101.5)	348,538 (102.5)
養豚	8,956 (100.1)	2,658 (106.6)	8,798 (98.2)	2,811 (105.8)
肉用牛	2,687 (102.8)	70 (107.6)	2,672 (99.4)	73 (105.2)
乳用牛	1,356 (98.9)	108 (104.4)	1,313 (96.8)	110 (102.5)

飼養頭羽数と1戸当たり飼養頭羽数の前年比



◇ 飼養頭羽数は養豚、養牛が減少も、養鶏は増加
 ◇ 1戸当たり飼養頭羽数は全畜種で増加
 ⇒ 生産者の規模拡大が進んでいる

※ 1 農林水産省 畜産統計
 採卵鶏は成鶏めすの飼養羽数、ブロイラーは出荷羽数
 2 カッコ内は前期比

飼料セグメントの状況

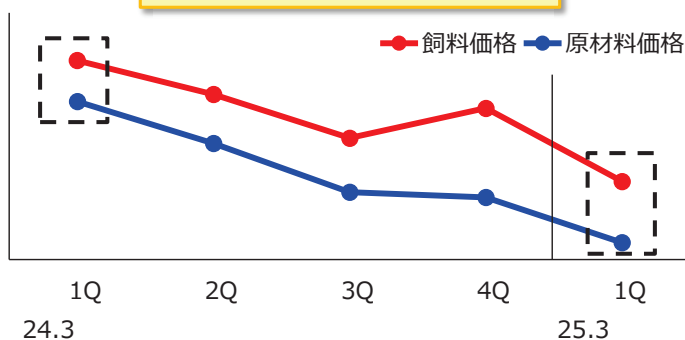
項目	前年同期比	要因	計画との比較
販売量	 +0.3億	◇ 前年同期比100.8% ◇ ブロイラー用飼料において、取組が評価され、販売量が回復 ◇ 養豚用飼料の販売量が減少 ○ 昨夏の猛暑の影響で子豚の頭数が減少し、飼養頭数が減少	 通期計画 102.7%
差別化飼料比率	 +1.0億	◇ 差別化飼料比率46.8%に上昇 ○ ブロイラー用飼料がけん引 ◇ 環境に配慮した製品の比率は伸び悩む ○ 生産者の羽数調整の影響により採卵鶏用飼料が減少	 通期計画 47%
電力費・燃料費等の変動費	 +0.9億	◇ 電力費は前年同期より減少、燃料費は前年同期より増加したが、変動費全体としては減少	

※ 計画との比較 ○：計画超過、△：計画どおり、×：計画未達

項目	前年同期比	要因	計画との比較
原料ポジション	 +8.2億	◇ 直近の穀物相場が下落し、原材料価格は下落 ◇ 原材料価格の下落を受け、値下げを実施 ◇ 値下げ実施後、円安が進行したため原料ポジションは前年4Qより悪化したが前年同期比では大幅に改善	




※ 計画との比較 ○：計画超過、△：計画どおり、×：計画未達

原料ポジションの状況

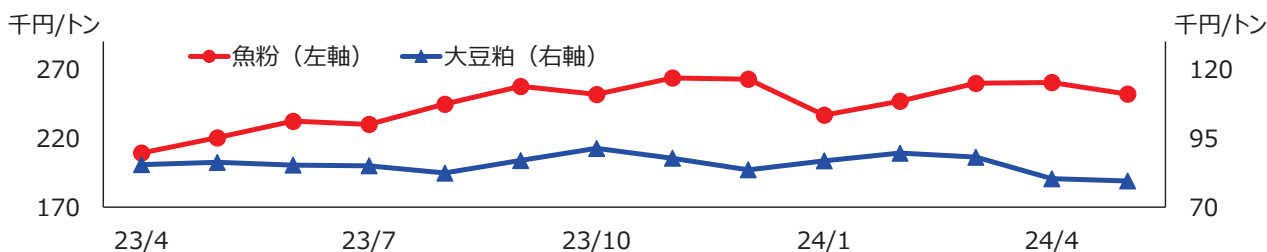


※原料ポジションとは

- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動
 - ◇ 飼料価格は、四半期毎に改定
 - ◇ 原材料価格と飼料価格の変動幅にギャップやタイムラグが発生
- ⇒ 原料ポジションが改善・悪化

項目	前年同期比	要因	計画との比較
水産飼料の利益改善	 △0.0億	◇ 利益率は改善したものの、販売量の減少及び水産物価格の下落により、ほぼ横ばい	○
利益率		◇ 配合割合の工夫により品質を維持しながらコストを抑制した新製品を投入 ◇ 主原料である魚粉の価格は上昇、魚粉の代替原料となる大豆粕は下落	○
販売量		◇ 前年同期比97.6% ◇ 価格競争の激化により、ハマチ用及びタイ用飼料が減少	× 通期計画 104.8%

※ 計画との比較 ○：計画超過、△：計画どおり、×：計画未達



※ 財務省 貿易統計

その他セグメントの状況

項目	前年同期比	要因	計画との比較
その他セグメント	↑ + 1.7億	◇ 各事業の販売が堅調なことなどから、セグメント利益は前年同期を上回る	○
鶏卵販売	↑	◇ 高価格帯商品が苦戦するも外食・業務向けが引き続き堅調に推移し、販売量も利益も前年同期を上回る	○
肥料	↑	◇ 前年同期に落ち込んだ販売が回復し、増益	○
畜産用機器	↑	◇ 補助事業による機器設置が好調で、計画を大幅に超過	○
保険代理業	↑	◇ 主力の畜産保険の販売件数が堅調に推移し、増益を確保	△

※ 計画との比較 ○：計画超過、△：計画どおり、×：計画未達

通期見通し

項目	2Q以降
畜産飼料販売	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 取組が評価されたブロイラー用飼料の回復が続く見込み ◇ 生産者の羽数調整の影響を受けた採卵鶏用飼料は夏場以降、回復する見込み ◇ 動物の疾病・廃業等により減少する可能性あり
差別化飼料	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 差別化飼料比率は1Q同様、2Q以降も堅調に推移する見込み ◇ 環境に配慮した製品の数量は回復する見込み
電力費・燃料費等の変動費	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 電力費・燃料費は10月までの酷暑乗り切り緊急支援により、負担軽減があるものの、その他の変動費が上昇傾向にあるため、全体では計画通りに推移する見込み
原料ポジション	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 2Qは1Qよりも改善する見込み ◇ 通期では計画通りに推移する見込み ◇ 穀物相場及び為替の状況により、激しく変動する可能性あり

17

項目	2Q以降
水産飼料	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 養殖業者の値上げを見据えた製品引き取り需要は7月中に落ち着き、反動で8月は停滞。9月以降は計画通り推移する見込み ◇ ハマチ用飼料は現在、取組・提案中の行動強化により回復する見込み ◇ 魚粉相場は概ね横ばいだが、為替と海上運賃の影響で変動する可能性あり
その他セグメント	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 各事業とも引き続き堅調に推移する見込み ○ 鶏卵販売においては、主力の『ごまたまご』をリニューアルし、さらなる販売強化を図る



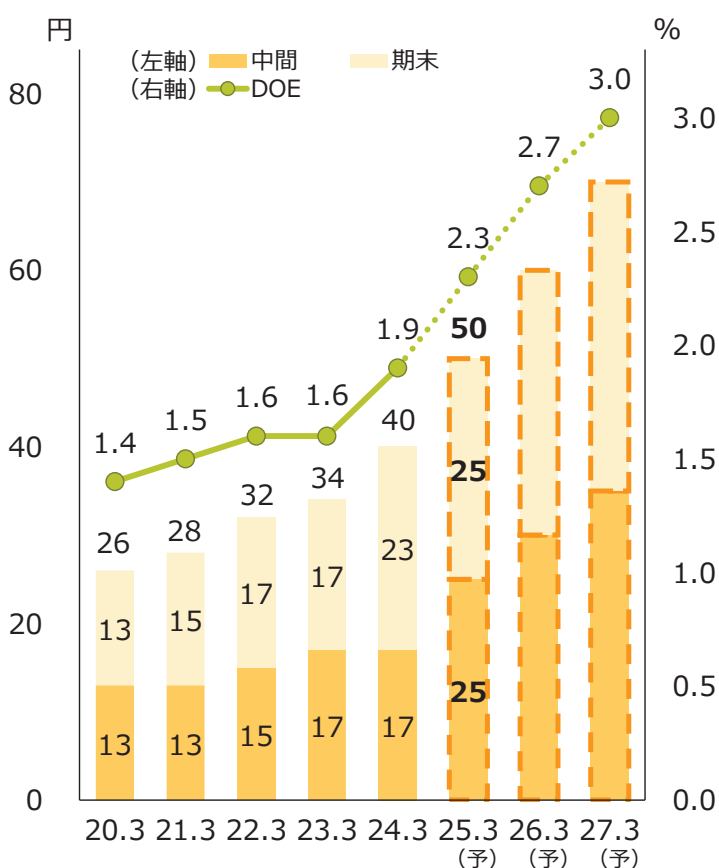
通期計画の達成を目指す

18

参考資料

株主還元方針

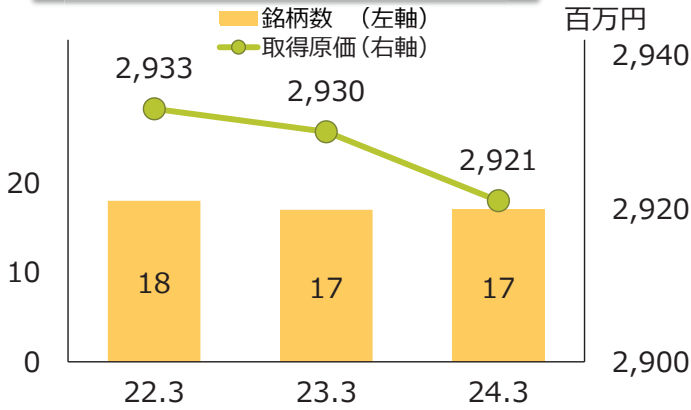
1 株当たり配当金及びDOEの推移



還元方針

- ◇ 安定配当を維持向上
 - ◇ 持続的な成長を支える成長投資や設備投資、内部留保とのバランスをとり、純資産配当率（DOE）3%以上を目指す
⇒ 現状からの段階的な引き上げ
 - ◇ 株価水準や財務状況等を勘案して自己株式の取得をより機動的かつ積極的に実施
-
- ◇ 25.3期は中間・期末ともに25円/株とし、年50円/株を予定

政策保有株式の保有状況



- ◇ 毎年、取締役会で個別に保有目的との整合性、保有による便益やリスクが資本コストに見合っているか等を具体的に精査
- ◇ 保有の意義が乏しいと判断した株式については、縮減を進める

25.3期は3銘柄を随時縮減（一部売却）

人材育成方針

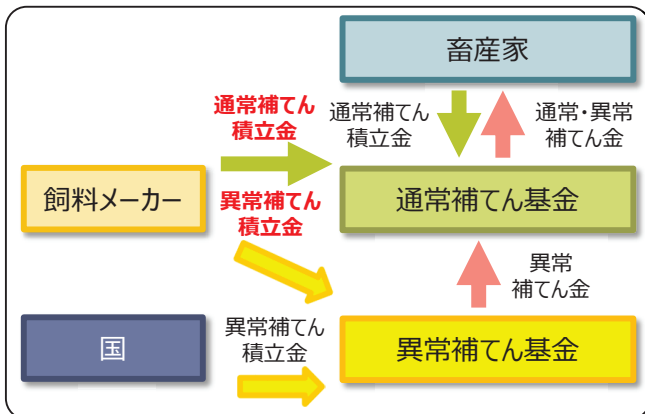
- ◇ 多様性確保のため、中途採用を含め、性別・国籍を問わず、視点・経験等が異なる人材を積極的に採用
- ◇ 階層別研修、課題別研修の実施により、従業員の専門能力と労働生産性を向上
- ◇ 女性・外国人・中途採用者にかかわらず、能力・実績等を総合的に評価し、管理職として相応しい人材を登用

指標と目標

指標	実績	目標
採用者に占める女性の割合	19% (2021年度～2023年度平均)	30% (2026年度～2028年度平均)
管理職候補者である係長級の役職者に占める女性の割合	2% (2023年度)	5% (2028年度)

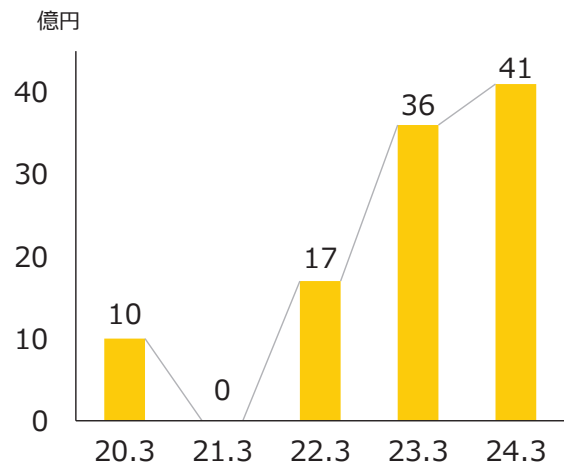
参考資料

基金負担金の仕組み



- 目的** ◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和
- 内容** ◇ 畜産家・飼料メーカー・国が積立
 ◇ 一定のルールに基づき、畜産家へ補てん金を交付
 ◇ 積立金は財源により増減

④ 基金負担金の推移



差別化飼料

- ◇ お客様との取組みの中で開発
- ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。